

2009年(平成21年)4月13日(月曜日)



不織布で包装したチップ状の炭八を天井懸に敷き詰める

マンションの床衝撃音低減

木炭利用工法でNETIS

出雲土建、全国展開へ

出雲土建(島根県出雲市、石飛祐司社長)は、マンション上部階からの重量床衝撃音を木炭で低減する工法について、国土交通省の新技術活用システム(NETIS)の登録を受けた。床がドス

ンと書く63ヘル帯域を35%低減できることが、旧公団住宅などの騒音対策に役立つと認められた。既設マンションでの対策に加え、新築物件に取り入れれば、床スラブ厚を薄層化して軽

量化につなげる」とも期待できる」という。NETIS登録を機に同社は、島根県を中心実績を積み、既設マンションでの対策に加え、新築物件にNETIS登録されたのは、建設廃材を原料と

する木炭「炭八」を利用した室内環境改善工法。不織布で包装したチップ状の炭八を天井懸に敷き詰めるだけで、騒音の原因となる天井ボードの振動を減衰することができ

S登録にも「実証を得た成果が役立った」という。炭八を使った騒音対策について同社は、床下に敷き詰める一戸建て住宅用と、天井懸に設置するマンション用の二つの手法を開発。島根県を中心

炭八には、室内の調湿性能、断熱性能、空気浄化といった機能もあり、防音だけでなく、広く室内環境の改善に効果があるという。

同社では、これまで解明されていなかった防音メカニズムを、小林理化

学研究所と日本大学理工学部の井上勝夫教授の協力を得て実証。その成果を、3月に開かれた日本音響学会の研究発表会で報告した。

報告では、賃貸マンション向けの比較的薄いス

ラブだけでなく、分譲マンションに使われる厚みのあるボイドスラブでも防音効果が得られることを突き止め、より広い範囲で適用可能などを明らかにした。石飛社長によると、今回のNETI

S登録にも「実証を得た成果が役立った」という。炭八を使った騒音対策について同社は、床下に敷き詰める一戸建て住宅用と、天井懸に設置するマ

ンション用の二つの手法を開発。島根県を中心

に、両手法で年間1億2000万円の売上高がある。NETIS登録を機に全国展開を図り、初年度となる09年度の売上高を2億円に引き上げたいと考えた。